

# Bane of Destiny.



SAA feat. Doujin Hoops



SAA feat. Doujin Hoops

Bane of Destiny.

# Contents

Comic	/05
Illustration	/15
Guests	/27
Novels	/33
Members' Comment	/38

## Members:

Ein

Ein

Amaharu Suzuki

Asuka Nanjo

Naori Hiraki

POP & Fukumaga

Mu-

Ryuga

## Guests:

Akanin

Iroha

Seiji Kikuchi

Hitode Jinpou

## Data:

Cover Ein & Mu-  
EyeCatch Iroha

Asuka Nanjo



# Comic



Naori Hiraki

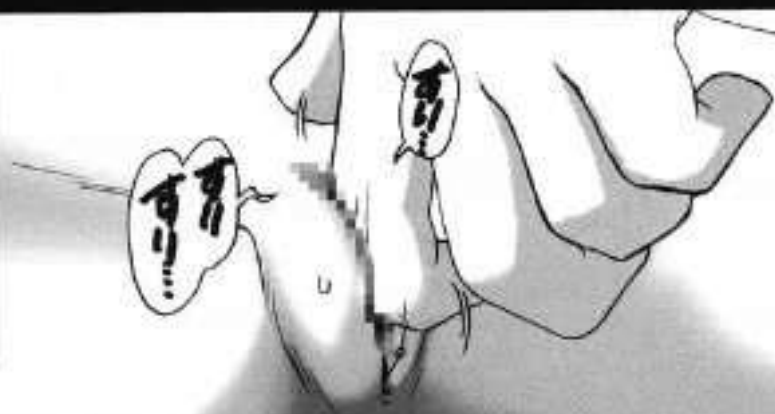
Bane of Destiny.



SAA feat. Doujin Hoops

我が主  
マスターテリオンは

時折私の  
身体で遊ぶ



本当に遊ぶだけで  
後は何もしない

その後は私が  
勝手にする



マスターのモノが  
私の腹内に  
おさまると  
幸福感と  
愛情で私は満た  
される

あっ……はっ……♡



ん…ん…ん…

うんっ…

はッ…!

あん…♡

そして私は  
マスターのモノを  
「私を使って」  
こすりあげる

はッ

あッ!

ほあ…♡

マスターにささげる  
ほんの少しの  
快樂と



私が

マスターの  
役に立っていると言う  
確認をするために

うん……!

いつまでも

そんな時を続ける  
為に

(タイトル) ぼくデモンバインをやったことはありません

編集長  
やりましたよ

ちょー  
スクープです！

ぼく

スクープって  
そりゃいいが何で  
ハダカなんだ  
リリースブリッジ

気にしないで下さい  
今回エロがないので  
サービスです


そうそうだって  
この本は  
エロ本ですもの

そういう事だな

ウフフフ


サービスか……  
ならしかたないな

ぼく




それより  
あの巨人の事です


うむ  
デモンベイン  
の事だな




はい  
巨大な足と  
それをおおい  
隠さんばかりのヒザ



やみよをあやしくてらす  
ひとみと  
巨大な角



そしてあらゆる物をうちくだく  
その巨大なウデ



これがその！

デモンズブイーン！

の写真です。

ってそりゃ  
ゼオライマーだ！





# Illustration



Amaharu Suzuki

MU-

E=mc<sup>2</sup>

POP

Bane of Destiny.





























# Guests.



Akanin

Seiji Kikuchi

Hitode Jinpou







構わんさ

こいつは人間じゃない  
もっと容赦なく  
広げてやれ

どうしますか  
これ以上は危険に  
思えますが…

Bane of Destiny.



SAA feat. Doujin Hoops



Ryuga



閉じた輪のロンド

竜牙

アル「九郎、妾は妊娠したようじゃ」

九郎「なにーっ!? まじか!」

アル「うむ、生理がない……」

九郎「なんだったって……まずい、まずすぎる。タダでさえ生活できないのに、これ以上扶養家族を抱えたら、マジで路頭に迷うどころか、餓死決定!?。ていうか都会の荒野で行き倒れ!? ん?」

……さてよ、この古本娘! おまえ人間じゃねえのに、もともと生理あのかよ!」

ライカ「くろうちゃん、わたしも生理がないのお」

九郎「あんたサイボーグでしょうがっ!」

ナイア「じつは私も……ふふ、責任をとってくれるよな?」

九郎「あんた邪神だしっ!」

ナイア「う、うまれる……」

ぼんっ!

「……てけりりり!」

九郎「って、出産早っ! しかもそれダンセイニだしっ!」

エルザ「だーりーくん! うちもロボ

く!」

九郎「みなまでいうな、雌<sup>メス</sup>」

ASIMO! 時速3キロで走ってろ!」

ウエスト「だ……」

九郎「ぶっ殺<sup>ころせ</sup>」

だきゅーん!

瑠璃「大十字さん……じつは私も……」

九郎「あんたお嬢様だし!」

九郎のほか全員「……」

九郎「……んん? って、ええ……」

「……はっ!」

オレは跳ね起きた。

きよろきよろと回りを見回す。

見慣れた、むさくるしい事務所。空気は冷たく、薄汚れた窓から差し込む光は弱い。まだ起きるには時間が早いことを示していた。

「ゆ、ゆめか……」

大きく息を吐き出した。なんて夢見の悪さだ。よりにもよって……オレの、子供だと? 冗談にもほどがある。しかもその自称母親ときたら、とうてい妊娠なんてするはずもない規格外品ば

っかりだ。まあ、覇道の姫さんとはともかく。

つくづくオレは女運が悪いのかも。しみじみ我が身の不幸を嘆きたい気分だ。

もう一度、オレはベッドに背中を投げた。

「……みゃっ!」

毛布の固まりが、踏みつぶされた猫のような声を上げた。柔らかく、あたたかな感触。

「う……九郎、貴様<sup>あなた</sup>妾<sup>わたし</sup>になにか恨みでもあるのか……?」

毛布がほどけ、なかから現れたのは、もちろん紫紺の髪を持つ、我が最愛の古本娘だ。

「ア、アル……なんでここに……」

「ん? 貴様<sup>あなた</sup>ねぼけておるのか? なぜここに……」

まぶたをこすりながら、アルが上半身を起こした。

「……む、むね、むねっ!」

まろび出た小降りの胸が、柔らかさうに揺れた。オレは思わずそれを指さしてしまふ。

「よくよく寝ぼけておるな……汝<sup>あなた</sup>が昨夜脱がしたんであろう。だいたい胸く

夜脱がしたんであろう。だいたい胸く

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「うむ、すばらしき感触！ まさにパライソ！」

「……う、うーん」

ライカさんは起きない。これはひょっとして、全人類男性の夢、あの伝説のパフパフをやっても怒られないってことですかっ。

いざ、いかん、伝説の向こう側へ！

胸にダイブしようとしたオレ。だが、その瞬間、ライカさんの目がぼちりと開いた。思わず硬直。

「……もう、朝から九郎ちゃん元気ねえ……でももう、お姉さん限界よ。これで我慢して」

そういいながら、ライカさんは胸でオレの分身を挟んだ。ばふ。

こ、こ、これはっ！ パフパフ以上の神技と言われる、パイずりってやつですかっ。

アルには出来ない超絶秘技に、オレはあっけなく昇天した。

「の、のお~~~~っ♪」  
びゅっ。

「……はっ」

オレは跳ね起きた。  
ぼよん。

顔がなにか柔らかいものに埋まった。これは？

「おっと、どうしたんだい大十字九郎くん」

頭の上から声がかかる。いろっほい響き。この声は……。

「な、ナイアさん……！」

慌てて頭を戻すと、巨大な生乳が。

「な、な、な！」

「なにやってるんだい、急に。ちゃんと集中してくれないと困るよ」

そう言いながら、ナイアさんが身をよじると、えも言われぬ快感が下腹部に走った。

こ、これは……っ。

さらに頭を下げると、ナイアさんはなんと、全裸だった。おまけにオレも

「こ、この状況はいいたい？」

「いまさら何を言ってるんだい、いったいもなにも……」

くいくい。

「あう！」

「寝ぼけてもいいけど、こっちはちゃんと固くしておいてくれよ。一発や二発で萎えられたら、異界に閉じこめてしまうからね？」

ふふ、と楽しげに笑うナイアさん。

その間も、その下半身は、いつときも休まずオレを責めさいなむ。その年期の入った淫靡な膣に、オレが逆らえるはずもなく。

「の、の、のおお~~~~っ！」  
びゅっ

「……はっ」

オレは跳ね起きた。

きよろきよろと回りを見回す。

見慣れた、むさくるしい事務所。

今度は誰も……。

べろっ。

「あう！」

オレの分身に走った強い刺激に、オレは身を震わせた。

「だーりん、ちゃんと集中するロボ。今日はせっかくあのうるさい小姑みたいな女がいらないだから……」

そう言いながらも、小さい舌をオレの亀頭にまきつけてくる。人間にはできない動きで。

「ううう！」

なんて高性能だ、あのバカの作品とは思えない。あっけなくオレの自制心は焼き付き……。

「のおおおおおお！」

びゅ。

「……はっ」

オレは跳ね起きた。

眼下には緑の髪。またエルザか…

…?

「エルザ……」

オレは呼びかけた。

だが、その声に答えたのは。

「他の女と呼び間違えるとは失礼千万である！ 強く抗議するであらう！」

オレのペニスを加えていたのは…

……

ショックのあまりオレは……！

「~~~~~ッ!!」

びゅ。

「……うわあああああッ!!」

オレは跳ね起きた。

「な、なんつー夢だ……」

胃の底から吐き気がこみ上げてくる。

「うう……最悪だ」

「大十字さんっ！」

「は、はいっ！」

思わず背筋がのびる。人に命令しなれている人間の声は、有無を言わせない圧力というものがあるな。

「……って、姫さん？」

「大事なお話の最中に、居眠りとは剛胆でいらっしやること」

びきっ、と音がするくらいの見事な

青筋が、覇道の姫さんの眉の斜め上に

浮かぶ。

「え、えっと……な、なんでしたっけ

……」

いまいち状況がのみこめずに、オレ

はおそろおそろ訊いた。

びきびきびき。

秀麗な眉が寄り、さらに多くの青筋

が。

オレは内心ガクガクブルブルしながら

姫さんの次の言葉を待った。

「……はあ」

大きなため息を聞こえよがしにつかれた。なんだってこのわたくしがこんなことに……などとブツブツつぶやいている。

あのー、とってもコワイんですけど。

「いいですか、大十字さん!!」

「ひゃ、ひゃいっ！」

「少しはまじめになってください。しやれや冗談ではないのですよ、この事態は！」

だから、その事態というのはなんな

んでしょうか。ぼくちゃんさっぱり話が飲み込めないんですが。

「よもや責任を放棄して逃げ出すなんてことはありませんよね……?」

「せ、せきにん……?」

「そうです、この……」

姫さんは、さっと背後に手をふった。

「あなたの行動の結果に対するです」

そこにいたのは。

おなかをすっかり大きくした女性陣

＋アルファ(?)だった。

「九郎！」

「九郎ちゃん！」

「大十字九郎……」

「だーりん！」

「だーいじゅうじくろおおお」

「……大十字さん？」

「……の、の、の、の、おおおおお

おおおお!!」

どこまで夢なんだ。早く冷めてくれ。

だが、残念なことに、現実には悪夢よ

りももっと悪いものなのだ。たいてい

の場合において。

立て、デモンベイン!

悪夢の世界をうち砕くために。

頼むから、立ってくれ。おねがい。

… Bad End?

## Member's Comment

曲データや原稿を入れていたHDDが壊れました。  
デジタルはバックアップしないとデータがなくなっちゃうので怖いぞ。  
音楽はDSPのお世話になっていたわい。  
さよならゲンX(ω;) )  
1個目を250GBが  
2個も逝くとは思わなかった。;

**Bane of Destiny.**  
SAA feat. Doujin Hoops

038 Fin

## Member's Comment

デモンベインは知らないのですが 聴いてるのは楽しかったです(\*//)  
ありがとうございました(≡▽≡)/☆



**Bane of Destiny.**  
SAA feat. Doujin Hoops

039 だー

## Member's Comment

E=mc<sup>2</sup>

メール アルアルアルアルってお前はセンチー北京かよ！  
ナイアルヨ！あるのかないのかわかんねーんだよ！  
つか、アルの服はえろいよな、だれか着て下さいよ。

涼樹天晴

まだ海水浴まででゲームクリアしてなかったりします<sup>^^</sup>；  
自分的にはデモンベインキャラの肉感的な太ももが好き

南条飛鳥

うむー。アルアジフが描けなくて残念。いつかどこかでリベンジ！

平木直利

すみませんうちデモンベインしらんねん（笑）  
てもせオライマーの資料も土壇場で見つからなくてかなりいいかげん（泣）

POP&ふくなが

デモベはお腹こたわってるのでお腹こたわってみました～

竜牙

デモンベインは、やっぱりアルなんですけど……ツンデレ的に。  
……でも瑠璃もツンデレですよね……。  
そしてエセルも……ああもう迷うなあ！！く何かだ（笑）  
これだけツンデレ系がそろってて、キャラがあまりかぶっている印象がない  
のがスゲエなあとだったり。  
あと文章書き的には、デモベのノリノリ文章、かなり興味ぶかいですYO(´▽`)ノ  
ちょっとまねしてみてるんですけど、うまくいってるかなあ～。



**Bane of Destiny.**  
SAA feat. Doujin Hoops

040 Members

## Guest's Comment

赤人

半年前まで客でした。  
まさか自分がゲストさせていただく事になるとは(;´-`)  
デモ友人が鬼のように勧めるのでちょっとやってみました時間がなく途中… 移動中用に小説買ってきて補完しました。

いろは

リボンとかひらひらとか、(´Д´)ノウワァァン

菊池政治

またまた竜牙の尻で描かせていただきましたあ、(°▽°)ノ  
とりあえずこれからでもんべいーんやるっすよお♪

神保ひとて

緑川光に勃起しました

## Post Script

編集後記

さて、次回のDHPも、メンバー+アルファでお送りしたいと思えます。  
とりあえず、二つ目の戦いをクリアということで、みんなおつかれさまー！  
次回もがんばりまっしょい。

さらに、今回助けてくださった、ゲストのみなさま、ありがとです(´▽`)

そして、この本を入手くださったみなさま、ありがとうございます。  
次回のDHPは春のコミケSP&レボで発行予定です。  
お楽しみに(´▽`)



**Bane of Destiny.**  
SAA feat. Doujin Hoops

041 Guest



# DOUJIN HOOPS

PARTNERS.

*Volume 2*

Bane of Destiny.



<http://www.do-jin.org/>  
<http://doujin-hoops.com/>

## DATA

発行 SAA & Doujin Hoops Partners  
文責 TED、竜牙、まこ、  
連絡先 ted@do-jin.org  
発行日 2004.12.29  
印刷 二石印刷

**SAA feat. Doujin Hoops**



**Bane of Destiny.**